

AI とマイナス金利

囲碁の世界トップクラスの棋士がグーグルの開発した人工知能（AI）のアルファ碁に1勝4敗と負け越した。まさかと思ったが、AIの実力をまざまざと世界に見せつけた。

もっとも将棋の電王戦で最上位のA級在籍経験者の現役棋士がコンピューター将棋に負けた時のほうがショックは大きかった。

テクノロジーの発達は既存の勢力や常識を打ち破る歴史でもあるが、為替の世界も例外ではない。80年代初めに米銀で、移動平均などのテクニカル分析を利用した自動売買ソフトを日本の商社などに売り歩いた頃が原始時代のように思える。アルゴリズム、HFT(高頻度取引)など、テクノロジーの進化には限界がないように見える。

一方でECBや日銀のマイナス金利には政策手段として限界があると考える人が増えた。ECBはマイナス金利幅を拡大したが、銀行への配慮からマイナス金利で銀行に貸付を行う。ECBの使命は物価目標の達成で銀行の収益は無関係だとの見解からは後退した。こうなるとマイナス金利の効果は薄れる。

日銀も景気判断を下げながらも現状の政策を維持した。マイナス金利導入後の批判を気にしていることが総裁発言からもうかがわれた。FEDやBOEがマイナス金利の政策効果に疑念を抱いていることに加え、先導役のECBもマイナス金利の追求に及び腰になったことが影響しているのだろう。

マイナス金利政策は金利幅の拡大を前提に市場の期待に働きかけるからこそ為替レートにも影響する。それが腰砕けになれば逆効果になる。

アルファ碁と対戦した韓国の棋士は対戦を振り返って、AIには心理面や集中力で勝てない、と言った。形勢が悪くなると動揺して最善手を指せなくなるからだ。日銀も心理面や集中力を強化したほうがよさそうだ。

それとも、囲碁の7冠達成が目前の日本の井山名人がアルファ碁の戦いを見て、「AIは見えているものが違う。正直少し上をいかれているようだ」と言ったが、日銀の政策委員にAIを加えた方がいいかもしれない。